

地球の喧騒から離れ

この通信の1月号に「2020年は、日本にとってターニングポイントとなる大切な年」と書いた。新型コロナウイルスの発生で、なおその感を深くした。地球規模での対応が求められているものに、地球温暖化、異常気象、環境破壊、テロ・紛争、貧困、難民、プラゴミ、貿易摩擦など、様々な問題がある。さらに人類を何回も殺りくできる核兵器の保有など、この地球上には問題が山積している。国連を中心として各国の協調と理解、努力が求められ、本気の取組が必要となってきている。

そんな地球の喧騒から離れて宇宙空間に浮かぶ「ハッブル宇宙望遠鏡」を覗いてみませんか。

地球・太陽系があるのは「天の川銀河」。そこには、太陽のような恒星が2000億個。一番近いお隣の銀河は「アンドロメダ銀河」。この望遠鏡で見ることができる銀河は、1000億から2000億個。見えないその先にも、さらに銀河が。

「天の川銀河」には、地球に似た生命が存在可能な惑星が、数百億個あるという。2001年8月に撮影された、地球から5000万光年離れたNGC（ニュージェネラルカタログ）3079銀河の映像

を見て驚いた。銀河の中心部分から真っ赤な炎が噴き出ししているように見えるのだ。その炎は2000光年という高さだという。光の速さで2000年もかかる炎って！人類に似た生き物がどこかの星にも！などなど想像が無限大に広がっていく。

先月の3月9日午前4時23分。地震の揺れで目が覚めた。さらに大きな地震が来ないかと不安になって起きてしまった。テレビをつけると、宮城県山元町の何度も訪ねたことがある中浜小学校と、懐かしい当時の校長先生が映し出されていた。地震の後20分かかかる避難場所には移動できないと判断し、校舎の3F屋上屋根裏に逃げた。10mもの津波が近くまで襲ってくる中、みなで肩を寄せ合い一夜を過ごした。90名全員が助かった。校長先生は「状況を瞬時に判断し、責任をもって貫く覚悟が必要」と語っておられた。あれから9回目の3月11日・・・とその瞬間、宇宙の夢から現実に戻った。

3年目を迎えた子ども総合センターでの勤務。「状況に応じて、最善だと思う支援を、覚悟をもって貫いていきたい。」との思いで、皆さんとともに歩いていきたい。
(DOIG)

適応指導教室「はばたき」～「心の居場所となれる教室を目指して・・・」

はばたき教室も令和2年度がスタートしました。はばたき教室が開室した平成28年度に通っていた生徒たちが、今年3月に高校を卒業し、4月から大学生や社会人になりました。高校生も次の学年へと進級するなど、うれしい知らせが届いています。

当時、学校に行けなくなり、苦しんだり悩んだりしながらやっとの思いではばたき教室に通っていた子どもたちでしたが、時間をかけて教室の中でゆっくりと心を開き、自分の思いを話せるようになりました。自分の夢に向かって、毎年はばたき教室から飛び立っている子どもたちは、辛く悔しい思いをした分、高校で頑張っています。

はばたき教室では、子どもたちが自分に自信をつけて社会的自立や学校復帰ができるように支援をしていきたいと思えます。

今後も、心の居場所となり、子どもたちが安心して過ごせるはばたき教室を目指して、指導員が一丸となって努力してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

今年のお花見は・・・？

春と言えば桜、桜と言えば花見。シートを広げて場所取りをして、満開の桜の下で弁当を食べる光景をあちらこちらで見かけます。

どんなことを話しているのでしょうか。学校のこと、仕事のこと、家庭のこと、子どものこと・・・食も進みますが、会話もはずみません。自然と笑みが漏れ、その陽だまりが一段とあたたかみを増し、気持ちが癒されていく和みの場となっていくます。この時こそ、日本に生まれてよかったなとつくづく思ってしまう。

ところが、今年は新型コロナウイルスの影響で、花見も自粛傾向が高まっています。残念ですが、命に代える事はできません。

その桜の花。10日もすれば花も散り、すぐに葉桜となってしまいます。もう少しだけ咲いてほしいと思うのですが・・・。「だから、桜が好きなのです」と言われる方もいらっしゃるかもしれません。確かに、365日咲いていたら、誰も桜が好きだとは言わないかもしれません。「パッと咲いてパッと散る」その姿に自分の人生を重ねる人も多くいるのではないのでしょうか。

今年の花見は家族だけでこじんまり行うのも一味違ってよいかもしれません。花見スポットを見つけて、出かけてみるのはいかがでしょうか。

スタートの春。家族の笑顔と共に話に大きな花が咲きますように。(K・H)



センター長のつぶやき

あえて挑戦

2020年3月1日東京マラソン、3月8日名古屋ウィメンズマラソンで、東京オリンピック最後(3人目)の選手が決まった。

女子の一山麻緒さんは、前年の9月に実施された選考レース(MGC)で後半に失速し2位どころか6位と惨敗だった。その後アメリカの高地で必死にトレーニングを重ね、後半のスピードを徹底して磨いた。その結果、雨の降る悪条件の中、2時間20分29秒という歴代4位の好タイムで優勝し最後の切符を手にした。

一方男子の大迫傑さんは、同じく前年9月のMGCで僅差の3位に終わった。日本最高タイムを持つ彼にとって、許しがたい結果であったと思う。しかし、東京マラソンまでに大迫さんの持つ日本最高記録を破る人がでなければ、大迫さんが代表になることが決まっていた。だが彼は、ケニアの2400mの高地で2か月間必死に自らを追い込み、あえて東京マラソンに挑戦したのだ。結果は自己の持つ日本最速記録を21秒も更新する2時間5分29秒をたたき出し、代表を手にした。「座して瞑想にふけるよりあえて挑戦」したのだ。二人の見事な生き方に元気をいただいた。「努力は報われる」「あえて挑戦」見習いたいものである。(DOIG)

《巡回発達相談》

あたらしい春

みんなみんな ほめられるとうれしい
いくつになっても

日めくりカレンダーに、こんな言葉がありました。「困ったちゃん」は育て方か？に専門の医師は「基本は脳の機能的障害であると考えられており、育て方で起きるわけではない。育て方や対応により困難は増強も軽減もする。叱り続けるのか・褒めるのか」と提唱されています。進級進学など新しい場所でスタートするこの時期に、一度立ち止まって振り返ってみませんか。子どもが困った行動をした時、子どもをよく観察して、どうやったら我が子との生活が楽しくなるか。注意する時は3秒待つ ほめる時は1秒以内に！を実行してみましょう。

「やったね・すごいね・さいこう・かっこいい・すばらしい」こんな言葉であたらしい春を迎えてください。(K)

伊予市子ども総合センター

〒799-3127 伊予市尾崎3-1

伊予市総合保健福祉センター2階

☎989-6226